

7. 理事会・代議員会議事録

令和4年度 第1回 日本ヘルスコミュニケーション学会理事会 議事録

【会場】 インターネット会議システムによるオンライン開催

【日時】 令和4年5月2日（金）10時—12時

【出席者】

石川、木内、杉本、高山、中山、藤崎、宮原

陪席者：河口（HCW2021 大会長）、阿部（HCW2022 大会長）、奥原（事務局）

○報告

1. 事務局（担当：木内）（資料1-1、1-2）

木内より会員数・入退会状況、会費収入の報告があった。

2. 編集委員会（担当：石川）

石川より発行・投稿・査読の現状の他、以下の提案があった。

- ・投稿規定について英文抄録に関する記載、著者を特定できる情報を削除して投稿する旨、変更の提案があった。
- ・投稿論文フォーマットを2段組から1段組に変更する旨、提案があった。
- ・投稿要領について、学会員は日本ヘルスコミュニケーション学会誌に一般投稿することができる旨、変更の提案があった。

今後多用な学会の会員から論文投稿があった場合に備え、関連学会機構の全学会の運営委員の名簿および運営委員の少ない学会については査読者リストを作成いただきたい旨、依頼があった。

▶以上、承認された。文面の細部について、木内、石川で再検討の上、最終案を理事会に提案することになった。

3. 分科会報告

報告はなかった。

4. 機構・分科会のメーリングリスト一覧（資料2）

木内より資料の共有があった。

5. ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 開催報告（担当：河口）（別添資料）

河口よりプログラム、参加者数、収支決算、振り返りについて報告があった。

6. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 準備状況報告（担当：阿部）（別添資料）

阿部より予算計画、スケジュール、プログラム、オンデマンド公開、進捗状況、今後の予定について報告があった。

○議事

1. 2021 年度日本ヘルスコミュニケーション学会決算報告（資料3）

木内より報告があった。

▶承認された。

2. 2022 年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構予算（資料4）

木内より提案があった。

▶承認された。

3. 2020、2021 年度、令和3年度日本ヘルスコミュニケーション学会監査報告（資料5）

木内より、萩原監事の監査報告書の報告があった。

▶承認された。

4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 会計報告（資料6-1、資料6-2）

河口より報告があった。

▶承認された。

5. ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 監査報告（資料7）

木内より、萩原監事の監査報告書の報告があった。

▶承認された。

6. 臨時代議員会・分科会運営委員会合同会議の開催について（資料8）

木内より、大きな組織改組があったため説明の目的も含み、標記開催の提案があった。開催は、本日の理事会の議案が承認されれば、近日中に行う予定である。

▶承認された。

4. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構共通投稿規定について（資料9）

石川より変更の提案があった（詳細は上記報告2）。

▶承認された。

5. 会説（Editorial）の分科会の学会誌への掲載について（資料10）

木内より提案があった。

▶承認された。

6. 学会サービスの IT 化（会員専用 HP、名簿管理の自動化等）について（資料11）

木内より、UMIN を活用した IT 化について提案があった。

▶基本的な方針について承認された。

7. 営利企業所属の会員について（資料12）

木内より、営利企業所属者の会員資格案について提案があった。

▶方向性については承認されたが、細部の内容については継続的に検討することになった。

8. 各分科会の所属者の指定と運営委員の選挙の方法について（資料13）

木内より、機構会員全体のメーリングリスト作成、各分科会のメーリングリスト作成、分科会運営委員の選挙について提案があった。

▶提案の方向で承認された。

9. 日本ヘルスコミュニケーション学会と同学術集会の賞について（資料14）

木内より、学会優秀書籍賞、優秀論文賞、学術集会賞の呼称について、改組にともない機構の賞に変更する提案があった。機構の賞にする場合は対象の幅が広がる。

▶議論の末、

ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀書籍賞

ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀論文賞

ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀口演賞・最優秀ポスター賞

に変更することで承認された。

10. 職域別分科会について (資料15)

木内より職種別分科会の設定について提案があった。

▶継続審議となった。

11. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構と日本ヘルスコミュニケーション学会のロゴ (資料16)

木内より、機構のロゴを日本ヘルスコミュニケーション学会やヘルスコミュニケーションウィークのロゴに採用するかどうか、相談があった。

▶機構のロゴとして承認された。HCW については、各総大会長が判断し、各分科会については分科会運営委員会で審議することとなった。

12. ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 総大会長・第17回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集會大会長について (資料17)

木内より、ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 の総大会長の候補者について検討する必要がある旨、提案があった。

▶木内から、適任を思われる複数の教授に照会することになった。

13. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構ニュースレターの発行について (資料18)

木内より、理事会報告等と依頼原稿で、各年度1回で発行を始める旨、提案があった。

▶承認された。

14. 今後の予定、その他

役員の定年の導入について、検討の必要がある旨の発言があった。

阿部 ロゴをHCW名古屋で使いたい。

7. 理事会・代議員会議事録

令和4年度 第2回 日本ヘルスコミュニケーション学会理事会 議事録

【会場】インターネット会議システムによるオンライン開催

【日時】令和4年7月24日(日)15時—17時

【出席者(敬称略)】

出席者：木内、中山、宮原、石川、高山、杉本、藤崎(以上、理事)

陪席者：阿部(HCW2022)、後藤(事務局)

○挨拶・資料確認

木内より、資料(前回の議事録と資料1~7、追加資料1・2)の確認がされた。

○報告

1. 事務局(担当：木内)

木内より、会員数・入退会状況、会費収入の報告があった。

2. 編集委員会(担当：石川)

石川より、投稿論文の状況について報告があった。4月以降原著の投稿が4本あり、うち1本はまもなく受理予定、1本はリジェクト予定、2本は査読中とのこと。

3. 分科会報告

特に報告はなかった。

4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 準備状況報告(担当：阿部)(別添資料)

演題数に関して、阿部より報告があった。最終的に59演題が採択・受理された。59演題のうち、口演(オーラル)では、ヘルスコミュニケーションは28演題、ヘルスマーケティングと医療通訳は各2演題、サイエンスコミュニケーションは5演題、ヘルスリテラシーは5演題であった。現在、発表枠を組んでいる。コロナの感染拡大で行動制限がかかった場合は、オンライン参加となる学生参加者が出てくる見込みである。

○議事

1. ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 総大会長・第17回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会大会長について(資料1)

木内より、2025年度の学会大会長は検討中(未定)で、2025年度以外の年度(2021~2026年度)はすべて大会長が決まった旨、報告があった。2025年度に関しては、希望者が出なければ、東大が担当して開催する方向で検討することになった。

2. ヘルスコミュニケーションウィークの一般演題の分科会学術雑誌への招待投稿について(各分科会の運営委員会で判断)

各分科会の運営委員会の判断により、招待投稿しても良い方向で、承認が得られた。

3. ヘルスコミュニケーションウィークの最優秀口演賞・同ポスター賞の審査を分科会運営委員にも依頼することについて

審査は分科会運営委員にも依頼する方向で、承認が得られた。

4. 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会学術集会のヘルスコミュニケーションウィークへの参加について(資料2)

本件、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会より依頼があり、木内・中山で三者面談を行った。理事会で承認が得られれば、来年度以降から、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会に参加いただく方向で検討したい旨、木内より提案があった。

ヘルスコミュニケーションウィークに参加いただく方向で、承認された。

5. 職域別分科会について (資料3)

職域別分科会の設定について、木内より提案があった。主催者側の負担が増えないようにスケジュールを組み、職種別分科会も開催する方向で概ね承認は得られた。具体的な内容については、今後慎重に検討することになった。

6. 営利企業所属の会員について (資料4)

営利企業所属の会員に関する取り扱いは、当面、現状維持のままとすることになった。

7. 分科会の役員組織について (資料5)

木内より、各分科会に運営委員会の他に、評議委員会を設けてはどうかとの提案があった。若手～中堅の研究者に対して、役員というポストを作ることができるというメリットがあり、旧日本ヘルスコミュニケーション学会では、講師以上は原則として役員に就任を依頼していた。

今後の検討事項として、継続して、検討していくことになった。

8. ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀書籍賞、同優秀論文賞、ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀口演賞、同最優秀ポスター賞の規則について (資料6-1、6-2、7)

制定2022年7月24日の規則(資料6)は、若干内容は変えたものの大きな変更点はない。書籍賞・論文賞の規則は藤崎・高山が、口演賞・ポスター賞の規則は石川と杉本が内容を確認することとなった。

9. ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀グラフィカルアブストラクト賞について

グラフィカルアブストラクト(GA)は、分かりやすいものが多く提出されており、今年度は演題の半分ほどにGAがついていた。提出されたGAに対して、賞を出すことに関して木内より提案があった。

概ね賛同は得られたが、GA賞の選定基準が無いこと、著作権の問題など、賞を出すことで発生し得るリスクや懸念事項があるため、原木先生にも相談し、翌年度以降、賞受賞の制度を始める方向で検討することとなった。

10. ヘルスコミュニケーションウィークへの学会本部からの資金援助について

ヘルスコミュニケーションウィークへの学会本部からの資金援助については、従来は行ってこなかった。学会本部の業務委託も今後必ず必要になるため、その費用も考慮する必要があるが、会員数も増えているため、今後は資金援助を実施する方向で検討することになった。具体的な金額については、総大会長と議論の上、調整することになった。

11. 日本医療コミュニケーション学会の学術集会(ヘルスコミュニケーションウィークを除く)への資金援助について

木内より、旧医療コミュニケーション研究会が年2回研究会を開いていたので、日本医療コミュニケーション学会の改組の後も、秋のヘルスコミュニケーションウィークとは別に、春の研究会を開催したいとの要望があった旨、説明があった。

資金援助をするか否か、援助する場合は金額をどう設定するかなど、今後検討していくことになった。

13. 今後の予定、その他

特になかった。

以上

7. 理事会・代議員会議事録

令和4年度 第3回 日本ヘルスコミュニケーション学会理事会 議事録

【会場】金城学院大学 W5 棟 2 階 216 号室及びインターネット会議システム ZOOM

【日時】令和4年9月30日（金）16:00-18:00

【出席者（敬称略）】

出席者：木内、中山（ZOOM）、宮原、石川（ZOOM）、高山（ZOOM）、杉本、藤崎（途中参加、ZOOM）

陪席者：阿部（HCW2022）、奥原（事務局）

○挨拶・資料確認

木内より資料の確認があった。

○報告

1. 事務局（担当：木内）

木内より資料1をもとに会員数・入退会状況、会費収入の報告があった。

2. 編集委員会（担当：石川）

石川より、10月号の発行について、原著3編、書評1編の掲載の予定である旨、報告があった。

3. 分科会報告

特に報告はなかった。

4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 報告

阿部より、申込者数、協賛企業、収支状況、大会中の日程・流れについて報告、説明があった。

○議事

1. ヘルスコミュニケーションウィーク 2025 総大会長・第17回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会大会長について（資料2）

木内より、前回理事会以降でヘルスコミュニケーションウィーク 2025 の総大会長を引きうける候補の推薦がないため、総大会長は木内引き受けるが、この時に開催される日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会の大会長は、奥原剛として欲しい旨、諮られ、了承された。

2. 職域別分科会について（資料3）

木内より、職種に限定されない領域別分科会を横系として、職種別分科会を縦系として設定することの提案があった。例として、日本歯科コミュニケーション学会、日本看護コミュニケーション学会を挙げた。趣旨に関して、各理事より賛同を得た。設立の方向で調整や手続きを進めることになった。

3. ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀グラフィカルアブストラクト賞の選定基準（資料4）

木内より国外の先行例を参考にした評価基準、著作権の問題等の懸念事項、対策等について説明があった。本機構で賞を創設する場合の具体的な内容について原木准教授（埼玉県立大）より提案してもらうこととなった。

4. ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀書籍賞、同優秀論文賞の改訂について（資料5-1、5-2、5-3）

藤崎より、選考の円滑化のため、選考委員会の選出に代議員を加える旨、推薦者より当該論文のPDFを提出してもらう旨の提案があった。

異議なく了承された。

5. 分科会の役員組織について (資料6)

木内より資料6をもとに分科会の役員組織の選出方法について、前回理事会と同様の内容素案の提示があった。異議なく了承された。次回の理事会で規則案として検討することとなった。

6. ニュースレターについて (資料7)

木内より、ニュースレターの企画と担当の素案の提示があった。

ニュースレターは、PDFで作成し、会員へメールで送信する案である旨、説明があった。

異議なく承認された。

7. HCW 申し合わせ事項 (資料8、資料9)

木内より以下の説明があった。

1) 学術集会の開催形式は、理事会として提案を行うが、それを考慮しつつ、それぞれの状況を総合的に判断して、学会長が決定する。

2) 支援金に関して

- ・ 残額が出れば学会事務局に返却 (支援金を使い切る権利を持つものではない)。
- ・ 支出 (講演謝金・旅費など) は学会長のみで決定しない。

上記の2点、確認ができれば、厳密な見積もりがなくても支援を認める。

謝金、旅費などについては今後、基準案を作成することとなった。

以上

7. 理事会・代議員会議事録

令和4年度ヘルスコミュニケーション学会機構定時代議員会・分科会運営委員会合同会議事録

【会場】インターネット会議システムによるオンライン開催

【日時】令和4年6月25日（土）10時—12時

【出席者】

中山（健）、宮原、石川、高山、秋山、阿部、五十嵐、岩隈、大野、岡本、加藤、酒井、榊原、島崎、杉森、土屋、野呂、早川、本間、宮脇、安村、八巻、渡邊、江口、福田、川内、服部、濱井、南谷、瓜生原、市川、大西、尾関、灘光、植田、木尾、檉田、木内（順不同）

（委任状提出）

杉本、藤崎、萩原、石崎、上野、河口、川島、川村、菊川、北澤、須賀、孫、高永、田口、竹中、武林、中山（和）、長谷川、原木、藤森（順不同）

【欠席者】

奥原、五十嵐、押味、吉富、早川（順不同）

【配布資料】

議事次第

前回議事録

資料1-1. 学会事務局報告 会員数・入退会状況等(令和3年度分)

資料1-2. 月別会員数と入退会の状況

資料2. 学会組織の改組

資料3. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構役員・各分科会運営委員(2022-2024)

資料4. 機構・分科会のメーリングリスト一覧

資料5. ヘルスコミュニケーションウィークの一般演題募集と抄録の取扱い

資料6. 賞について

資料7-1. 学会別投稿要領

資料7-2. 共通投稿規定

資料7-3. 共通投稿用MS-Wordフォーマット

資料7-4. 共通投稿届

資料8. 2021年度決算報告

資料9. 2021年度会計監査報告

資料10. 2022年度予算案

資料11-1. ヘルスコミュニケーションウィーク2021収支決算報告書

資料11-2. 過去の学術集会収支

資料12. ヘルスコミュニケーションウィーク2021監査報告書

資料13. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構、分科会役員に関する申し合わせ事項

資料14. 学会サービスのIT化について

○挨拶・配布資料確認（前回議事録、資料1-14）

木内より、開会のあいさつ、配布資料、前回議事録の内容についての確認があった。

○報告

1. 会員入退会の状況（資料1-1、資料1-2）

木内より、令和3年度現在の会員数が正会員182人、学生会員43人、合計225人であること、入退会の詳細について報告があった。質問はなかった。

2. 2022年度改組の概要の説明(資料2)

木内より、学会組織の改組について(組織下の分科会、組織変更のメリット、役員人事、会員サービス、会員管理等)説明された(昨年度役員会での説明内容の再掲)。質問はなかった。

3. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構・分科会運営委員(資料3)

木内より、現時点での機構・分科会の運営委員について説明があった。また次回の役員からはすべて選挙を実施する旨説明があった。
質問はなかった。

4. 機構・分科会で運用するメーリングリストについて(資料4)

木内より、以下の報告があった。

- 各メーリングリストに含まれるメンバーと用途について説明があった。
- 各分科会会員のメーリングリストは、会員の所属が決まってから登録予定である旨説明があった。

メーリングリストは全て投稿可能な設定かどうか質問があった。

木内より、機構全会員用のものは基本的に通知用(返信すると送信者(=機構事務局)のみに配信される)。他の機構理事会、機構代議員会、分科会運営委員会、分科会委員用は議論できる設定である(返信するとメンバー全員に配信される)旨、回答があった。

5. ヘルスコミュニケーションウィークの一般演題と抄録集の取り扱いについて(資料5)

木内より、以下の説明があった。

- 今年度ヘルスコミュニケーションウィークでの演題募集について、医学中央雑誌の演題抄録の取り扱い、2022年度以降のHC学会機構の演題抄録の取り扱い、業績としての表現方法について説明があった。
- 全分科会で一般演題を募集するのは初めてであるため、演題登録の促進にご協力いただきたい旨、またグラフィカルアブストラクト作成を推奨する旨、説明があった。

演題締め切りについて質問があった。

阿部より、募集期間は6月6日から7月8日であるが、1週間延長予定して最終締め切りを7月15日とする予定であると、回答があった。現在登録演題数が9演題であること、参加、演題登録に促進してほしい旨、説明があった。

6. 学会賞・学術集会賞の取り扱いについて(資料6)

木内より以下の説明があった。

- 2022年度より、日本ヘルスコミュニケーション学会優秀書籍賞、同優秀論文賞を、ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀書籍賞、同優秀論文賞という名称に変更する旨、説明があった。
- 2022年度より、日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会最優秀口演賞、同ポスター賞について、ヘルスコミュニケーションウィーク最優秀口演賞、同ポスター賞という名称に変更し、オンラインでの投票とする旨、報告があった。

阿部より、オンデマンド開催は9月21日からオープン予定であるため、リアル会場での開催前から評価可能である旨説明があった。

質問はなかった。

7. ヘルスコミュニケーション学関連学会機構共通投稿規定について(資料7-1, 7-2, 7-3, 7-4)

木内より、投稿規定の詳細について資料に沿って説明があった。日本ヘルスコミュニケーション学会誌は一般からの投稿を受け付けるが、分科会の学会誌は当面依頼原稿(シンポジウム演者への依頼等)のみとする旨、説明があった。

石川より、今年度より、著者情報は投稿届に記載し、原稿には著者情報を載せずに査読する形式となっている旨、説明があった。

学会誌への英文論文の投稿は可能か質問があった。

木内より、日本語と英語での投稿が可能である旨、回答があった。

英語での学会発表が可能であるか質問があった。

木内より、日本語と英語で可能であり、前例があるとの回答があった。

○議事

1. 令和3年度日本ヘルスコミュニケーション学会決算報告(資料8)

木内より、令和3年度学会事務局の収入明細と支出明細について報告があった。

2. 令和3年度日本ヘルスコミュニケーション学会監査報告(資料9)

木内より、監査報告の説明があった。

異議なく承認された。

3. 令和4年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構予算(資料10)

木内より、令和4年度ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の予算案について説明があった。

異議なく承認された。

4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 会計報告(資料11)

木内より、ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 の会計報告について資料に沿って報告があった。

5. ヘルスコミュニケーションウィーク 2021 監査報告(資料12)

木内より、監査報告の説明があった。

異議なく承認された。

6. 分科会学会長(運営委員長)、副学会長(副運営委員高)、学術集会大会長、編集委員長選任に関するも申し合わせ事項について(資料13)

木内より、今後の各学会の学会長、副学会長、編集委員長の選任方法、兼任方法についての申し合わせ事項について資料に沿って提案があった。

異議なく承認された。

分科会の学術集会の開催方法について、ヘルスコミュニケーションウィークで一括開催とするか、個別での開催も検討するか質問があった。

木内より、各分科会とも年1回はヘルスコミュニケーションウィークで一括開催したい。年2回以上行いたい場合は個別でも開催可能と考えているが、今後検討する旨の回答があった。

学術集会開催に伴う活動費は学会本体から出るとかという旨の質問があった。

木内より、今後理事会で統一のルールを作りたいとの回答があった。

7. 学会サービスのIT化(会員専用HP、名簿管理の自動化等)について(資料14)

木内より、会員名簿、メーリングリスト管理システム、HP作成システム、学会誌検索システムについてIT化していく提案があった。

異議なく承認された。

8. 質疑応答

法人化する計画はどのような状況であるか質問があった。

木内より、理事会での意見をもとに、もう少し仕組みが固まってから進めていく旨、回答があった。

会計報告の年度間違えについて指摘があった。

木内より、訂正する旨、回答があった。

年度繰越金がたくさんあることは健全ではないのではないかという旨、今後、学会本体から学術集会開催に対して補助金を出すのかという旨の質問があった。

木内より、これまで補助金を出しておらず、学会の安定運用のために貯めてきたが、これ以上黒字を出し続ける必要はないが、減らすことのないようにはしていきたい旨、回答があった。また学術集会開催の補助金については、今後理事会でルールを検討していきたいとの説明があった。

阿部より、学術集会の参加費について、主催校の授業の一環としての学生参加に対する特例は認められるかという旨の質問があった。

木内より、これまで前例がないが、団体割引のような設定もあってよいと思うと回答があった。

各大会の大会長の裁量権はどの程度認めるかとの質問があった。

木内より、これまでは大会長の裁量度は高かったが、重要な事項についてはその都度理事会で最終決定している旨、回答があった。

オンライン参加で学生の参加を増やして、興味関心をもってもらう機会とする提案があった。

木内より、学生が授業の一貫として参加する場合でオンライン参加に限定する場合は、大幅割引してもよいのではないかという発言があった。

授業の一貫としての参加の場合、参加費は学生でなく学校側が支払うべきである旨、説明があった。一括で学校が決済できるようなくみが必要であるとの提案がなされた。

木内より、次回理事会で検討したい旨、回答があった。

ヘルスコミュニケーションウィークでの企業ブースの受け入れについて質問があった。

ランチョンセミナーから取り入れる提案があった。

阿部より、検討していきたいとの回答があった。

以上